

第3回 ふれあい観察会

鹿島川を見てみよう！

戸村 真理子（八街市）

日 時：2015 年 10 月 17 日（日）

場 所：千葉市若葉区富田町、谷当町周辺

参加者：大人 6 人、子ども 1 人 計 7 人

指導員：小林義和、谷 英男、戸村真理子、晝間初枝、松川 裕、水野和年、

朝方までの雨で天気が心配されましたが、皆さんしっかりと雨対策をして集まり、予定通り実施されました。初めに、谷さんが、鹿島川から印旛沼への水の流れについて話してくれました。昭和の森を源流とする川は3本あり、鹿島川が印旛沼へ、小中川が太平洋へ、村田川が東京湾へと流れます。今回は、下田農業交流センターからゴルフ場沿いに鹿島川まで下り、堂谷津を回って水の流れとその周りの自然を観察しました。

2つのグループに分かれて観察開始。街路樹のモミジバフウは色づき始め、セイタカアワダチソウの花が咲いています。林縁には、カラスウリ、クズ、カナムグラ、キツタなどのつる植物が木を覆い尽くすように茂り、ゴンズイやカキ、ムラサキシキブ、コマユミなどの秋の実が色鮮やかになっていました。コースの半分ほどを行くと鹿島川に着きました。田んぼではダイサギが餌をついばんでいます。昨夜までの雨でいつもより流れが速いようでしたが、水量は多くありません。それでも、一級河川の利根川につながっている歴とした一級河川だとのことで、いつも渡っている川が急に立派に見えてきました。この辺りの谷津田には貝層がいくつか見られ、かつて海であったことがわかります。

そして、鹿島川から谷津田沿いに堂谷津池に向かって緩やかに上っていきました。以前はアシやガマなどが生い茂る放置田になっていたのを、農家の方や市民団体、千葉市などの協力で谷津田が再生されたとのこと。一番上の田では数種類の古代米が植えられ、稲架にかけた稲にトンボやバッタが止まっていました。谷津田の奥まで行くと、林に囲まれた堂谷津池がありました。周囲の滲み出し水が溜まってできた池で谷津田を潤す大切な水ですが、以前より水量が減ってきているとのこと。池のわきの崖に瓦礫が捨てられていて、この池を守ってくことの大切さと難しさを感じました。車道に出る山道にはニリンソウが咲くとのことですが、なんと その道でマヤランが数株見つかри、人の手が適度に入ることによって里山の自然が再生していくのだと実感しました。

長いコースでしたが、ジョーク交じりのわかりやすい説明に、自然豊かな鹿島川のほとりや谷津を歩き、水の流れやその環境の大切さを肌で感じ取ることのできた楽しく充実した観察会でした。

